

ビニールハウスを活用した木材乾燥スケジュール普及事業

取組に至る背景・事業の目的

国の「森林・林業再生プラン」で、今後 10 年間に国産材自給率を 50%に拡大することを目指して、森林は「育てる」から「活用する」時代へと大きく舵をきった。しかしながら、大北地域には木材の人工乾燥施設がないことから、短期間で丸太を加工、製品化することができない。このため、多くの地域材は丸太のまま他の地域へ供給され、地域で使われにくい状況である。

そこで、地域材を加工して付加価値を付けた製品を地産地消する仕組みづくりを推進するため、天然乾燥の期間を短縮する環境に配慮した木材乾燥技術を開発し、大北地域における地域産木材の利用促進を図る。

事業内容

- 平成 21 年度に開発した「低コストで環境に優しいビニールハウスを利用した乾燥技術」をより確実なものとするため、換気システムの向上や初期の含水率の低下を促し、乾燥時間を短縮する新たな乾燥スケジュールを開発した。
- この技術を広く普及するため、実施マニュアルを作成して関係者に配布するとともに、インターネット上で公開した。



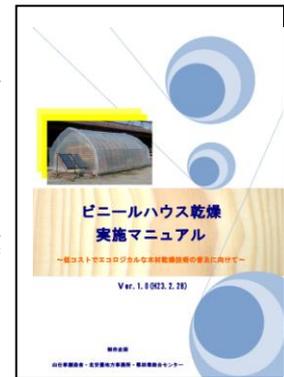
【木材乾燥施設（ビニールハウス）】

事業効果

- ビニールハウス乾燥による地域材製品は、松川村南保育園の内装材として、地元松川村産のアカマツ材が使われたことをはじめ、民間住宅への活用を進めるために、県産材モデル住宅の内装材としても活用されており、その良さをPRすることにより、今後の地域材の利用拡大が期待できる。
- ビニールハウスで加温し、ソーラーパネル発電で換気を行うことにより、化石燃料を使わない木材乾燥が実施可能になることから、化石燃料の削減により地球温暖化防止に貢献できる。

<ビニールハウス乾燥による地域材乾燥実績>

平成 21 年 5 m³ 平成 22 年 10 m³



【実施マニュアル】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 本格的な事業規模の太陽熱利用木材乾燥施設の設置に向けて、経済性評価を含めた実証研究を継続していきたい。
- ビニールハウス乾燥材による製品を地域ブランド商品として確立したい。

【選定のポイント】

地域の課題解決につながる可能性を持つ取組みであり、今後の技術の積み重ねと、普及宣伝により、地域材の利用拡大につながることを期待できる。

団体名 企業組合 山仕事創造舎（大町市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 電話 0261-26-2580	事業費	570,106円
ホームページ	支援金額	550,000円
http://yamashigoto.com/		